

< Vol.10 の記事 >

地域スポーツクラブについて。。。

浦スポはその設立理念の中で、(総合型)地域スポーツクラブへの展開を目指しています。

浦スポはその設立理念の中で、(総合型)地域スポーツクラブへの展開を目指しています。

ところで、皆さんは「総合型地域スポーツクラブ」について、どのように感じていますか？ もしくはどの程度知っていますか？

10号では、福島で設立された地域スポーツクラブの報文を紹介させていただくことにしました。

スポーツが、学校の部活か企業のクラブ活動でしか続けづらい現在の日本国内の状況から、何歳までも、学校や企業といったしがらみに関わらず、好きなことを好きなように近くで気軽に続けられるためにも地域スポーツクラブがあるべきだと考えます。

浦スポに高い会費を払いながらも(^^)続けられている一般会員の方は、どこかそういう想いを抱いているのだと思います。

浦スポの掲げる生涯スポーツの理念をさらに進めるためには、周辺で理解者を増やし、固定の活動場所、指導者の確保、組織運営のスタッフの確保が重要となります。ぜひ、皆さんも地域スポーツクラブについて機会があればさらに理解を進めていただき、生涯を通じていつでも好きな時に仲間と球を蹴ることができるクラブをつくっていきましょう。

蛇足ですが、クラブが大きくなれば、もっと安い会費で、各年代のチームづくりなどを進めて体力に応じた練習が行えるなど、生じるメリットははかりしれません。

それに、サッカーだけでなく、極端に言えば、スポーツだけではなく、たとえば料理クラブとか、絵画クラブとか、そういったものも出来れば、家族も一緒にきてそれぞれ楽しめるようになり、週末蹴りばかりして家で冷ややかな目で見られることも少なくなります(^^)

余計なおしゃべりはここまでにして、うつくしま広域スポーツセンター小仲さんの報告を、一部省略して以下に掲載します。

「スポーツと健康づくりをいつも身近に」

地域をベースとしたスポーツクラブでつくる新しいライフスタイル

うつくしま広域スポーツセンター
プロジェクト・マネジャー 小仲 京子

学校を卒業すると体を動かす機会のなくなってしまふ大人たち、いろいろなスポーツを体験したくても種目の限られた環境にある子どもたち、また興味はあっても現実的に活動するチームを自分で探すとなると、試合に参加するに至るまでの道のりは長い……等々、スポーツと日常生活の間にはいざとなると意外に大きな隔たりがあるのが現状だ。一方では、もっと気軽にスポーツを楽しめたら、その仲間たちと有意義な時間を共有できたら、また、もっと高いレベルの競技生活が地域でできたら等々、多様なスポーツニーズの高まりも見られる。

こうした中、いま注目されているのが、スポーツの“市民クラブ”ともいふべき「総合型地域スポーツクラブ」だ。画期的なこのアイデアの根本となる考え方は、

- 1、地域住民がスポーツクラブの運営に参加すること
 - 2、クラブは地域に根ざした公的な性格を持つこと
 - 3、誰でもがクラブ活動に参加できること
 - 4、運営資金は自助努力によって確保すること
- などが上げられる。

これには国も理解を示している。文部科学省が昨年9月に策定した「スポーツ振興基本計画」では、「成人の週一回以上のスポーツ実施率が2人に1人(50%)となることを目指す」、さらに「2010年までに全国の各市町村において少なくとも一つは、総合型地域スポーツクラブを育成する」という目標が設定されている。

f-sports(福島市)の場合

f-sports 副会長の伏見貞俊さんをクラブハウスに訪ねた。といっても、アプリという店舗に間借りした一隅。クラブハウスとは、いつも開かれている場があり話のわかる人がいるだけでまずは機能するものなのだ！

「若い人たちがやる気を出してつくったんで、私も、引退してたんですが手伝おうと出てきたんです。」と伏見さん。実質的に事務局を預かっているかたちだ。

このクラブの設立に向けて「地域スポーツの未来を考える会」という話し合いが持たれたのが、平成12年12月21日。年が明けた1月のうちにさらに4回、合計5回の考える会を重ねて構想を練った。

その構想をもとに、2月中に2回の全体説明会を開催。スポーツ関係者・関連団体、市や学校、企業などに協力を呼びかけ、意見を吸い上げた。

3月8日、第1回設立準備委員会開催。専門部会に分かれて、趣意書の作成、規約や会費の検討とあわせて、従来は行われていなかった付属小学校の学校開放についても協議を進めた。

翌4月13日の第3回準備委員会で、設立総会開催に向けた準備をほぼ完了。27日の設立総会にこぎつけた。そして5月12日にはクラブハウスもオープン、具体的な活動に入った。その5ヶ月足らずの経過、話し合いの内容や準備作業の要点は『「f-sports」設立までの5つのステップ』として、1冊の資料集にまとめられていた。そのせいもあってか、つい話はトントン拍子に進み、まとまっていったような印象をもってしまう。

しかし、「地域スポーツの未来を考える会」の議事録を読んでみると、クラブづくりにともなうさまざまな疑問や懸念・問題が自ずと洗い出され、踏まえられなければならなかったことが分かる。

また、その前進力は「子どもたちにスポーツを！」という親たちの願いだったことに違いはないが、もう一つ、設立までの準備活動全般にわたって黒須充福島大学助教授が活動を共にしたことも見逃せないだろう。総合型地域スポーツクラブづくりでは全国の第一人者である氏の的確な情報提供とアドバイスが、話し合い各回での理解をより正確なものとし、次のステップを確実なものにしていたことが読み取れるからだ。

住民の、住民による、住民のためのクラブへの最前線の問題

「(他と)まったく違うところは、やっぱり行政主導じゃないところでしょうね」と伏見さん。

すると何が違うかといえば、費用は完全に自前でスタートという点が一番だろうか。したがって会費と賛助会費のほか、売れるものは売り、使える手は使おうという姿勢で資金確保に努めている。市街中心の商業地という地域柄、このあたりの思いつきから実行への手堅さについてはプロも揃っている。資料『「f-sports」設立までの5

つのステップ』も有償だ。

もう1つ大きいのは、人はすべてボランティアが頼りであること。一人いればなんとかなるといってクラブハウスの運営にしても、その一人の獲得が大変なのだ。「今は六人がボランティアで、細かく時間を分けて当番表をつくってやっていますが、みんな自分の仕事を持っていたりしますから、臨機応変で細かく連絡をとりあうしかない状態ですね。」という伏見さんがより多くを担うことに。

「会議もみんなが揃うということがなかなかなくて、38名の役員の三分の一ぐらいしか集まらない。するとどうしても、私らいつも事務局に出ているものが現場の判断でやるという流れになるんですが、あとで、それはいつ決まったの?…という具合で、まとまりを取りにくい状況がありました。現在はそういった状況のことも含めての共通認識のもと、分担化したり、議事録や委任状で確認を取り合いながら進めているところです」

総合型地域スポーツクラブの成り立ちやあり方は、その地域状況や特性に応じて少しずつ違ってきたかたちを取るのだろう。特に人口が集中している都市部では、“地域”のとりえかた一つにしても単純な線引きはできない。住民の意識や環境も多用だ。その一面には、このf-sportsの場合のように、自立的な意識の高さや親たちの行動力の大きさとともに、より大きな可能性が秘められてもいる。

「市としてもそれなりの構想はしているようです。いわゆる行政区ごとにといえるものでしょうが、f-sports はあえて地域で閉じないでオープンに行こうという方向です。地域の人じゃない人も気軽に来れる、小学生も、中学、高校生も、大人も、みんな来れる、そしてゆくゆくは、お祭りの山車なんかを一緒に出す、そんなところまで行ければいいなあ…」と言って伏見さんは目を細めた。

時に、総合型地域スポーツクラブというより総合型「住民」スポーツクラブと言ったほうが、また「広域」とした方が分かりやすいのでは、と思う。クラブづくりのツボも理念も、そこにあるのだから。

(以上)

浦和SCニュースは、クラブ内の情報交換を図ることを目指して発行しています。外部へのPRにもどんどん利用してください。必要があれば部数をお送りします。事務局までご連絡ください。発行は不定期になることを、予めお断りしておきます(すみません ^^) ニュース、意見等投稿をお待ちしております